

スライド 1 / ~~508~~→449 文字



皆さん、こんにちは。

寒川町社会教育委員の山口です。小林です。

これから、**寒川町社会教育委員による**事例発表を行います。

~~本日の地区研究会のテーマは「社会教育でめざす『ひとづくり・つながりづくり・まちづくり』」です。~~

同じ言葉が重複するので整理

まず、~~私たちの~~**寒川町**について簡単にご紹介させていただきます。

~~寒川町は~~古くから相模国一之宮、**寒川**神社の門前町として知られていますが、町内には旧石器時代の遺跡など、太古の昔から人々が生活していた痕跡が残っています。

昭和 15 年に町制を施行して**寒川町**となり、昭和 30 年代半ばから高度経済成長期に工場が相次いで進出し、人口が急増し始めました。その後も増加傾向をたどり、令和 5 年 4 月 1 日現在で 48,545 人と神奈川県内で人口の最も多い町となっています。

町域は東西 2.9 キロ、南北に 5.5 キロ、面積は 13.42 平方キロメートルで、おおむね平坦なコンパクトな町です。

町の南北方向に走る JR 相模線は、大正 10 年にまず茅ヶ崎・寒川間で開通し、現在は町内に 3 つの駅えきがあり、町民ちょうみんの足として利用されています。あし りよう

また、首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)が開通し、平成 25 年に町内にインターチェンジが 2 か所設けられたことにより、~~町民や企業にとっ~~**て交通の**利便性が大幅に向上しました。



寒川町内の主な学校教育施設は、小学校 5 校、中学校 3 校、県立高校 1 校、社会教育施設は公民館が 3 館 4 施設、図書館が 1 館あります。

公民館は、本日の会場である町民センター~~は~~が昭和 54 年度に開館し、ホールや展示室を備えた大型公民館です。この他に寒川小学校の余裕教室~~2~~部屋を活用した町民センター分室があります。

北部地区と南部地区には老人福祉センターと公民館の複合施設となる文化福祉会館があり、それぞれ集会室や実習室、図書館分室を備えた施設となっています。

寒川総合図書館は寒州文書館との複合施設で、平成 18 年度に開館しました。蔵書が最大 23 万冊収容でき、町内外から多くの利用者がいます。

寒川町の公民館と図書館は平成 29 年度から指定管理者制度を導入し、民間事業者による管理運営を行っています。

同じ言葉が重複するので整理

外部評価や地域のニーズを取り入れた社会教育施設の在り方を検討していくため、社会教育委員会議の中に~~公民館及び図書館に関する事項を専門的に協議する~~公民館部会、図書館部会を設置しています。

本日の研究発表では~~公民館部会と図書館部会~~で各部会からそれぞれ事例発表をさせていただきます。



本日の全体テーマは「社会教育でめざす『ひとつづくり・つながりづくり・まちづくり』」としました。

近年は少子高齢化、情報化、グローバル化の進展、地域コミュニティの衰退、~~昨今は~~新型コロナウイルス感染症拡大など、私たちの生活には急速な社会環境の変化と課題が顕在化しています。に対応しなければならない課題が増えています。

聞いてわかりやすい言葉に変更

豊かな人生を送るためには、生涯にわたる学びを通じて行動変容をすることが必要とされており、ここに社会教育の力が期待されています。

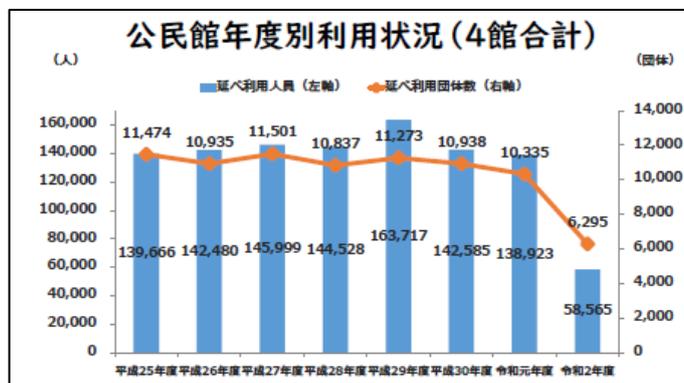
同じ言葉が重複するので整理

地域の社会教育活動には、仲間と学び合い、支え合うことで、人と人との交流が深まり、地域コミュニティの維持・活性化に貢献していくことが大きな役割となります。

地域に居場所があること、仲間がいることで自己肯定感が得られ、地域に対する愛着、よりよい地域まちづくりに持続的に取り組もうという意欲にもつながります。

このようなことから、町民の学びの拠点となる公民館や図書館での人や地域をつなぐ取り組みについて本日は事例発表を行います。

初めに公民館部会の「すべての世代が集う公民館をめざして」から発表いたします。



町内4つの公民館は自主的なサークル活動で多くの利用がある身近な学習場所です。

また、~~公民館の~~講座やイベントは~~様々な分野や対象に向けた内容を企画し、~~地域コミュニティを育む交流の場としても重要な役割を担っています。

このグラフは公民館の年度別利用状況です。

令和元年度までは利用団体数、利用者数は横ばいであり、~~利用者が増えず~~固定化している状況がありました。

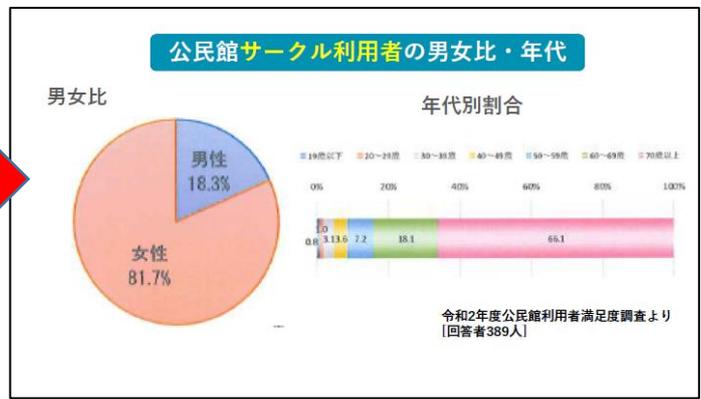
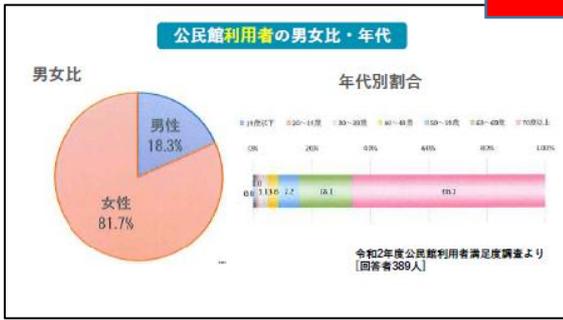
同じ言葉が重複するので整理

そして、令和2年から拡大した新型コロナウイルス感染症は、~~公民館活動~~にも大きな影響を与えました。~~グラフは公民館の年度別利用状況です。公民館~~は3月から6月まで~~公民館が~~臨時休館となり、外出自粛要請など、人が対面で集まる機会が減ったことで、~~公民館の~~利用が大幅に落ち込みました。

また、学校のPTAや、自治会・町内会、~~地域~~の伝統行事なども活動自粛となったことで、~~地域~~のつながりがさらに希薄になりました。

~~そこでこのような~~~~地域~~コミュニティの衰退や社会的孤立が課題となる中、公民館が~~地域~~の身近な学習拠点としての役割を果たし、人々がつながるためには、どのような取り組みが必要とされているのか検討しました。

(スライド 5/~~147~~→143 文字)

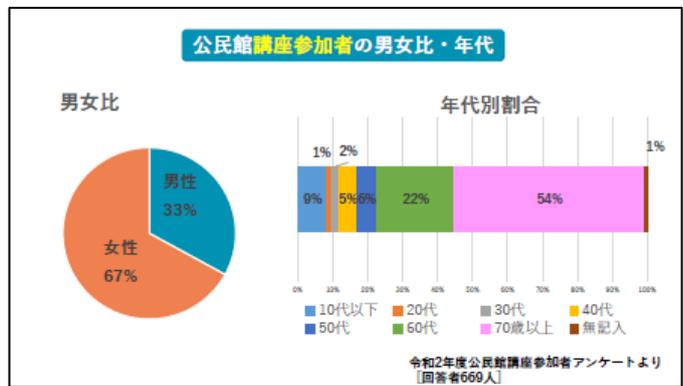


まず、コロナ前に公民館をどのような人々が利用しているのかをアンケート結果から分析しました。

公民館では、主に公民館サークルを対象に毎年「公民館利用者満足度調査」を実施しています。

同じ言葉が重複するので整理

このグラフは令和2年度実績です。定期利用者の81.7%が女性、年代別では70歳以上が66.1%と割合が非常に大きくなっています。



こちらは令和 2 年度の公民館講座に参加した方へのアンケート調査結果です。こちら参加者の 67%は女性、年代は 70 歳以上が 54%と過半数を占めています。

この 2 つのアンケート結果からも、公民館にはシニア世代の女性の利用は多くありますが、男性と 20 代から 50 代までの働き盛り世代・子育て世代が少ない結果が出ています。

人生 100 年時代が到来し、誰もが「生涯学習社会」の実現をめざす必要があるとされておりますが、~~地域の学びの場である~~公民館利用の実状としては、利用者の性別、年代に偏りがあることが明らかになりました。

(スライド 7/42→41 文字)



そこで、公民館にすべての世代が集うために~~は~~、関心を高めてもらう取り組みを考えました。

公民館をあまり利用していない世代とその原因

- ①中学生・高校生・大学生
生活圏や活動範囲が広がり、地域での活動が少なくなる。
- ②勤労世代
平日は仕事に時間がとられ、あまり地域に目が向かない。
- ③定年退職世代（とくに男性）
今まで地域と接点のなかった人は、活動に入るきっかけが難しい。

公民館の存在を知らない。
公民館を知るための情報発信が足りない

まず公民館を利用しない世代とその原因について考えました。

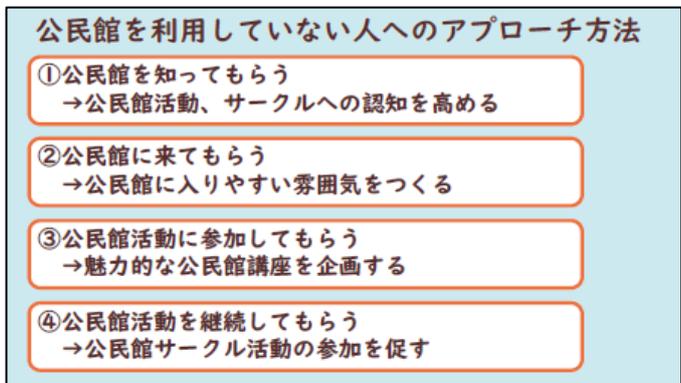
学生世代は、年齢が上がるほど、生活圏や活動範囲が広がり、地域での活動が少なくなること。

勤労世代は、平日は仕事に時間がとられて、休日や勤務後の余暇時間があっても地域での活動にはあまり目が向かないこと。

定年退職をした世代でとくに男性は、自治会などの地域活動や子育てなど家族に任せきりであった人ほど、地域との接点がなく、地域での活動に入るきっかけが難しいこと。

同じ言葉が重複するので整理

このような世代の人々には地域で活動する入口として、公民館をもっと活用してほしいところですが、公民館利用者が増えないところには、まず公民館の存在を知られていない、公民館を知るための情報発信が足りないのではないかという意見が出ました。



そこで、公民館を利用していない人へのアプローチ方法を検討しました。

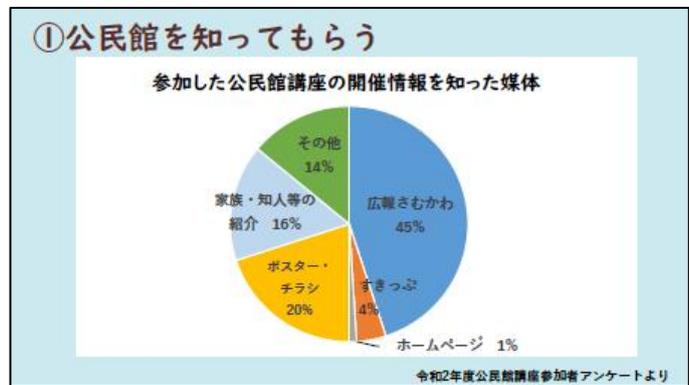
1点目はまず、公民館を知ってもらうこと。あらゆる世代に向けて公民館活動、サークルへの認知を高めること。

2点目は、公民館に来てもらうこと。小学生などは学区に公民館がなければ、自主的に足を運ぶ機会が少ないです。また、~~公民館~~の場所を知っていても、~~建物~~の中に入るきっかけがつかめない人もいるので、入りやすい雰囲気をつくること~~が重要~~です。

3点目は、公民館活動に参加してもらうこと。活動するきっかけとなるように魅力的な~~公民館~~講座を企画すること。

4点目は、公民館活動を継続してもらうこと。サークル活動に参加し、定期的に公民館を利用してもらうこと。

この4点について考えました。



まず、1点目の「公民館を知ってもらうこと」について、現在、公民館に来ている人はどのようなところで情報を得ているのか、~~公民館~~講座の参加者アンケートで分析しました。

令和2年度の参加者アンケートの結果では、町の広報誌「広報さむかわ」が45%となっています。「広報さむかわ」は、町内の保育園、幼稚園、小学校を通じて~~幼児・児童に~~年4回配布している子ども対象事業に~~特化した~~掲載している情報紙で、これが4%となっており、広報誌とすきっぷという紙の情報誌によって開催情報を知った方が全体の約半数となっています。

この調査では、ポスター・チラシが20%となっており、町内の広報掲示板や公民館内に掲示するポスターから情報を得ている人も一定数おり、効果があることがわかりました。

反対に、最近はスマートフォンやタブレットを持つ方が多くなりましたが、公民館講座の情報をホームページから知る方は1%と非常に低いこともわかりました。

しかし、認知度としては低くても、やはりインターネットを活用してタイムリーな情報を発信することも重要だと考えます。



公民館を知らない人、関心のない人に情報がいきわたる工夫、PR方法はどのようなものが考えられるか公民館部会で検討した中で、~~年1回公民館の講座をPRする~~ような保存版の公民館利用ガイドを配布してはどうかという意見ができました。

利用ガイドを作るにあたり、

- 公民館活動をすべて紹介しようとせず、「公民館に来てください」とアピールするものを強調する
- 表紙は「公民館へ行こう」というような呼びかけるキャッチコピーや写真などを用いて、目を引くデザインが良い。
- 子ども向けや女性向けの講座は~~これまでも~~充実している。これまで公民館を利用してこなかった人に向けた講座づくりや、きっかけづくりが必要であるが、「利用していない人」では対象が漠然としてしまうため、仕事を退職して、時間に余裕ができた人をターゲットにする。

といった意見が出ました。

令和3年4月に第1号を発行し、毎年4月号の~~号~~に広報誌とともに全戸配布をしております。

(スライド 12/242 → 0 文字)

現状では、広報誌や掲示板のポスターなどの紙媒体から情報を得る利用者は多いですが、公民館活動の認知を高めるためには、あらゆる世代に「見える化」を図ることが重要です。

若い世代に向けてはスマホなどインターネット環境から情報を得る場合が多いことから、紙媒体とインターネット媒体の2本立てでPRを行っていくことが良いとの意見ができました。

そこで、公民館の指定管
報はフェイスブック、公民
で発信を始めました。

ページごと
削除

PR方法として、講座の開催情
紹介する動画はユーチューブ



2点目の「公民館に来てもらう」ためには、まず公民館の存在を知ってもらわなければなりません。



幼稚園・保育園、小中学校の PTA や保護者会の集まりで、打ち合わせや懇親会ができる場所を探している~~ところ~~~~も~~~~ニ~~~~ズ~~~~は~~~~あ~~~~っ~~~~て~~~~も~~~~が~~、公民館を利用できることが知られてないという意見もあり~~ました~~。ニーズがあっても存在が知られていないという課題について、まず公民館へ来てもらうために、~~公民館に~~行きやすく、入りやすい雰囲気づくり、分かりやすい利用案内が~~ほしい~~~~と~~~~い~~~~っ~~~~た~~~~意~~~~見~~~~が~~~~出~~~~ま~~~~し~~~~た~~~~必~~~~要~~~~と~~~~さ~~~~れ~~~~て~~~~い~~~~ま~~~~す~~。

文字数減のため文章の整理

また、現在の公民館は駐車場が少ない、コミュニティバスが近くを走っていないなど、~~「公民館に来てもらう」ために必要な、公民館への~~アクセスの~~せ~~~~ず~~~~き~~~~し~~~~に~~~~く~~~~さ~~についても意見が出ました。

これに関し、町内のすべての公民館は、建設後40年以上が経過し、老朽化が進み、寒川町公共施設再編計画では公民館の移転が検討事項となっています。

この計画では、公民館の各部屋の稼働率から現行の機能とニーズに不一致が生じていることが指摘されています~~が~~。調理室や和室は稼働率が低いため~~不要~~~~と~~~~の~~~~見~~~~方~~~~も~~~~あ~~~~り~~~~ま~~~~す~~~~が~~、社会教育施設である公民館については、単に稼働率だけを見るのではなく、「住民ニーズ」と「社会の要請」の2つに添っていくことが必要です。

「公民館に来てもらう」ためには、~~公民館に~~入りやすい雰囲気づくりのほか、アクセスのしやすさや、~~社会教育施設として~~持つべき機能、それを最大限に発揮するための環境づくりをしていくことが必要です。

文字数減のため文章の整理



3点目の「公民館活動に参加してもらう」では、~~公民館~~講座は、町民のニーズに合った事業を開催することができれば、多くの参加者が来ることが望めます。~~公民館講座に一度~~参加した経験ができれば、その後も講座~~に参加するこ~~や、サークルで活動~~に参加~~するきっかけにつながります。

~~公民館講座の参加者は約70%が女性であるため、~~男性の利用を増やすためには、来やすいように男性対象に特化した内容や募集方法を工夫する必要があります。~~例えば、~~そば打ち教室や、歴史講座は男性に人気があります。

また、親子で参加できる事業には、子育て世代の保護者の参加が見込めます。星空観察会や親子工作教室は、父親の参加も多く見受けられました。

初めて参加した男性や子育て世代が継続して公民館に足を運んでもらえるような魅力的な講座づくりが重要です。



公民館講座に参加するためには申込手続きが必要です。これまでは公民館の窓口か電話で申し込み受付をしていましたが、~~公民館の~~開館時間である日の午前9時から午後5時までに手続きをしなければならず、共働き家庭の多い子育て世代には申し込みがしにくい状況がありました。

そこで、令和4年度から新たにインターネットで手続きができる申込フォームを新たに始めました。

文字数減のため文章の整理

スマートフォンやパソコンで24時間いつでも申し込みできることから、大変好評で、~~子ども対象の講座の申込が増加しました。~~

~~これまでの講座参加者には常連が多く見受けられましたが、~~申込手続きがしやすくなったことにより、初めて参加したといった新たな利用者の獲得と、~~固定化の解消~~につながっています。

また、夏休みの子ども対象事業など、参加申し込みが多いことが見込まれる講座は抽選方式で受付をしています。講座によっては定員の3倍を超える申込もあり、落選者が多いことは心苦しいですが、先着順よりチャンスが増えることや、潜在的ニーズが高い企画内容であったことが申込者数という数値で効果が見えるようになりました。



また、寒川町では町公式 LINE を開設し、約 1 万 5 千人の登録者がいることから、令和 4 年度から公民館講座の情報の LINE 配信を始めました。

町の広報誌より申込開始日や開催日近くに情報発信できるメリットがあり、積極的に情報発信するようにしたところ、配信直後に申込者が増える効果が出てきました。

とくに先ほど紹介したウェブ申込フォームを利用している講座は、LINE の画面から申込手続きへが簡単に**遷移**できるため、利便性の向上が図られました。

町公式LINE で情報発信を始めた頃は、町民に「町からのお知らせが頻繁でわずらわしい」との意見もありましたが、最近は「町のいろいろな情報を知ることができて良い」と好意的な意見が大半となってきました。

令和 5 年度から公民館講座参加者アンケートに町公式 LINE 登録状況を確認していますが、参加者の 46%が登録しており、情報発信に有効な媒体となっています。



文字数減のため文章の整理

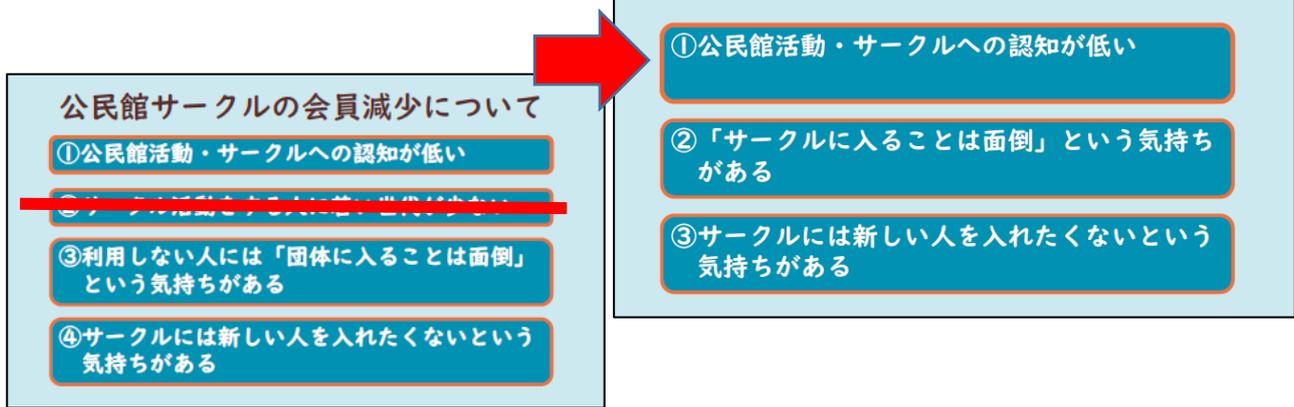
4点目の「公民館活動を継続してもらう」ためには、人と人がつながることが重要で、~~公民館~~サークルの育成、支援を充実させる必要性があります。

令和2年度の新型コロナウイルス~~感染症拡大~~の影響で公民館の利用者数が減少しましたが、これは各サークルの会員数が以前より減少していることが大きな要因となっています。

公民館がサークルと個人をつなぐ役割となるように、「サークル入会体験フェスタ」を毎年5月と11月に開催しています。この1か月間に~~公民館~~サークルの見学会や参加体験日を設定し、~~既存サークルへの~~新規会員の加入促進を支援しています。

~~平成29年度から毎年期間を設定して実施をしていますが、~~しかし、フェスタ参加者やサークル加入者はそれほど多くない状況です。そこで、私たちは~~公民館~~サークルの会員が減少している根本的原因について考え直しました。

スライド 18→17/~~169~~→74 文字



公民館サークルの会員が減少している原因として、公民館部会で意見を出し合ったところ、~~43~~の問題が見えてきました。

画面で表示するため削除

- ① 公民館活動・サークルへの認知が低い
- ② サークル活動をする人は若い世代が少ない
- ③ 利用しない人は「団体に入ることは面倒」という気持ちがある
- ④ サークルに新しい人を入れたくないという気持ちがある

この4つの問題の改善方法について考えました。

文字数減のため文章の整理

まず、課題の1点目、「公民館活動・~~公民館~~サークルの認知が低い」

ことについては、「見える化」が足りないことがあります。



公民館の活動を知ってもらうためには、町民~~に対して繰り返し情報提供を~~
~~行うことが重要で、~~の全世代の目にとまるように~~するためには~~、紙媒体とイン
ターネット媒体の両輪で~~情報提供を進める必要がありますが、~~。さらに情報が
来るのを待っているのではなく、情報を得ようと能動的になってもらうこと
が望まれます。

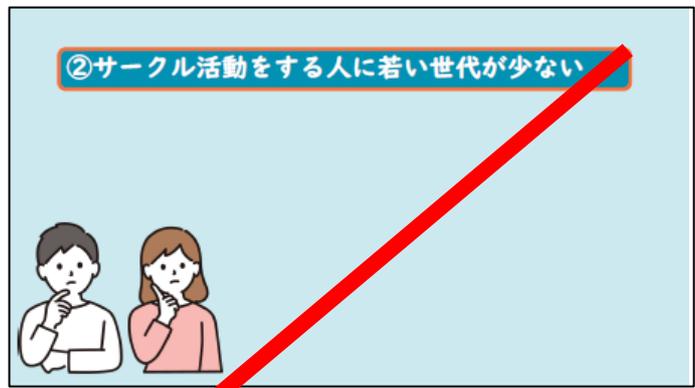
各公民館にはどのようなサークルがあるのかがあまり知られていないため、
公民館の入り口付近にサークル一覧を掲示したり、サークル一覧を配布した
りしていますが、これを公民館以外の場所でも PR することが有効ではないか
との意見がでました。

サークル入会体験フェスタについては、参加を促す工夫が必要であり、~~サ~~
~~クルの活動~~内容や参加できるスケジュールを確認しやすいように、ポスター
にはサークルの体験実施日が一目でわかるレイアウトにして、町内の広報掲
示板に貼るようにしました。

さらに~~サ~~
~~クル入会体験~~フェスタの期間前から公民館ロビーでサークルの
作品展示を行えば、それを見た人が~~フェスタ~~期間中に~~公民館に~~足を運び、サー
クル見学を促す契機になるのではないかという提案もあり、実行しています。

(スライド 20/~~217~~→0 文字)

課題の2点目は「サークル活動をする人に若い世代が少ない」ことです。改善策としては若い世代の利用を増やす取組を仕掛けることがあげられます。

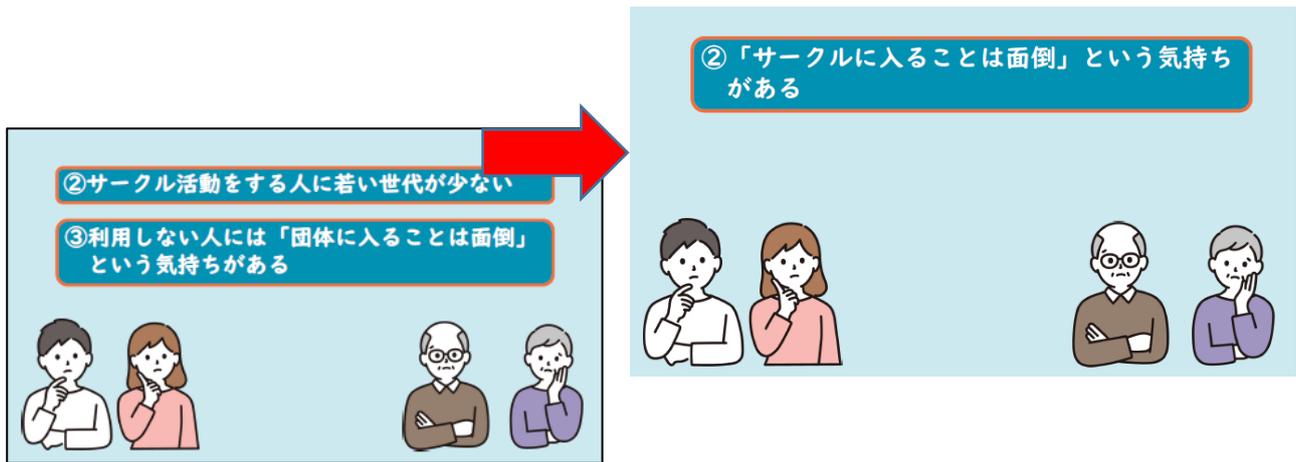


中学生、高校生といった学生の利用者を獲得するために、趣味を同じくする人や趣味を持った人達でサークルが作れるように支援してはどうかという案が出ました。

それぞれの都合に合った公民館の活動や行事などがいかとを考えます。

**ページごと
削除**

選択して活動できるように、参加者も見込めるのではないかと考えます。



文字数減のため文章の整理

課題の32点目は「~~利用しない人には~~「~~団体~~サークルに入ることは面倒という気持ちがある」ことです。地域に仲間がいて、活動が楽しいという気持ちを高める工夫をしてはどうかという案が出されました。

公民館利用者拡大のためには、ニーズの高い趣味的な内容のほか、運動や健康関係など公民館に行きたくなるような講座を開設し、その講座への参加者をにとどまらず、仲間との居場所づくりや新しいサークル結成に繋げていく団体育成の支援も重要です。

とくにリタイア世代の男性は、働いていた時期に地域とのつながりが希薄だった場合が多く、地域活動に参加するきっかけづくりが難しいことも考えられます。



まず公民館講座に参加して、参加者同士が仲良くなり、居場所づくりとなることで、もうちょっと続けてみたいという意欲がわきます。さらに、「健康にいい」、「生きがいを感じる」というような魅力が感じられる内容であると、サークル化に繋がりやすい傾向があります。

この時に、サークルにしようと音頭を取ってくれる人の存在は非常に大きいです。

スライド 23→21/348→338 文字

④サークルには新しい人を入れたくないという
気持ちがある

③サークルには新しい人を入れたくないという
気持ちがある

課題の43点目は「既存サークルには新しい人を入れたくないという気持ちがある」こと。

改善案として、新しく参加する人が委縮したり、疎外感を感じなくしたりする配慮をするという意見がありました。

運動系サークルは活動場所の広さと人数の兼ね合いがあり、人数が増えると活動が難しくなる事情や、~~あります~~。また、技量が違う新入人が入ってくると、サークル内にギャップが生まれてしまうため、~~新たな~~受け入れはできない場合もあります。

文章が長いため分割

コロナ禍の中では活動休止~~となったり~~や、新規会員の受け入れをしないサークルもあり、既存サークルへの加入促進だけでは~~会館~~サークルの活性化の実現は難しい状況が見えてきました。

ほかにも運営方法や活動の方向性など、サークルごとに様々な悩みはつきものですが、自分たちの~~サークル~~の中だけでは解決策が浮かばないこともあります。



サークルの中の課題解決支援として、サークル同士で抱えている課題を情報交換したり、他のサークルと交流したりする機会があると、解決の糸口や、~~ま~~新しいつながりを広げることができます。

各館の登録サークルの交流会を行うことは有効なのではないかという意見が出ました。

公民館まつりは、様々なサークルが一堂に会し、展示発表を行ったり、まつりの運営に協力したりすることで、ジャンルの違うサークルの人と出会う良い機会となっています。

地域に知り合いが増えることは楽しいと感じ、サークルに新しい仲間を受け入れて、教えあおうという優しい気持ちにつながることを期待します。

公民館まつりについて追加



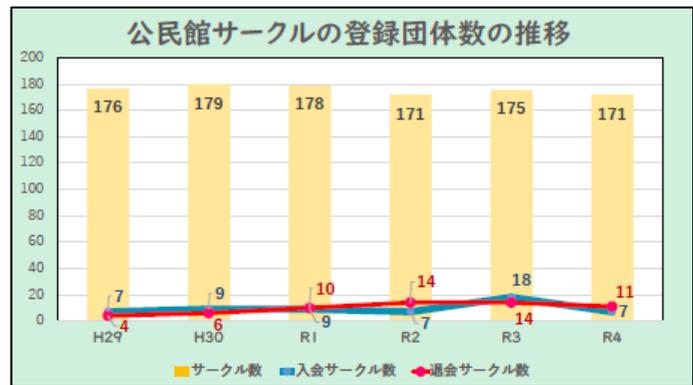
これらの取組を行った成果について、令和4年度の利用実績から検証してみました。



まず公民館の年度別利用状況ですが、~~令和2年度を最低値として~~、令和3年度以降は回復傾向が見られます。

~~令和~~4年度の利用団体数は~~令和~~元年度より増加となりました。

利用者数については~~令和~~2年度より伸びてはいますが、まだ戻りきっていないことから、これは各~~公民館~~サークルの会員数の減少が続いていることが原因と考えられます。



公民館で定期的に活動するサークルは公民館の「利用者の会」に入会登録してもらいますが、登録団体数については、入会と退会がほぼ同じような数となっていることで、登録団体数が維持されていることがわかりました。

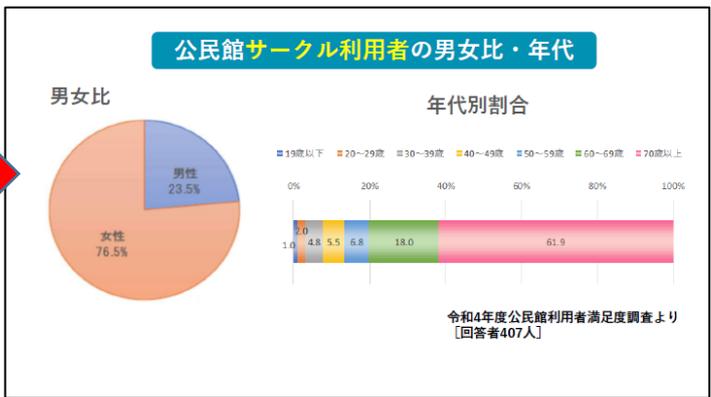
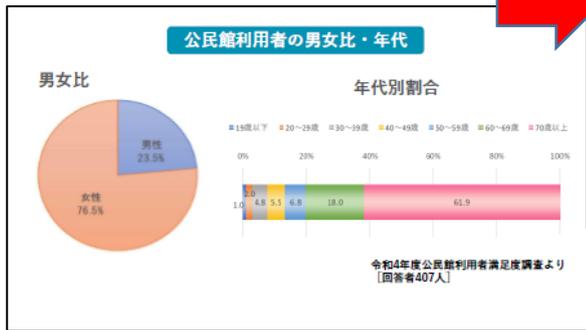
登録総数だけを見ると単に毎年サークル数が維持されているように見えていましたが、実は入会と退会がほぼ同じような数となっていることがわかりました。

聞いてわかりやすい文章に変更

新型コロナウイルス感染症の影響で、高齢化して会員数の少なかったサークルは退会が増えましたが、それに対して、新しいサークルを結成する機運も高まったようで、令和3年度は表にある6年間のうちで最も多い18団体が新たに登録され入会しました。

その中には公民館の連続講座からサークル化につながったものが6団体あり、令和4年度も新たに入会した117団体のうち、6団体が公民館講座からのサークル化でした。

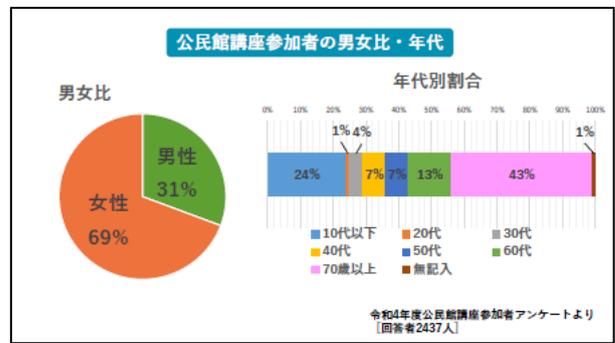
魅力的な公民館講座の企画がきっかけとなり、人をつなげ、継続的な学びにつながる成果となりました。



公民館利用者の年代と男女比については、**主にサークル利用者を対象とした**令和4年度の公民館**サークル**利用者アンケート結果では、男性が 23.5%、70歳代の割合が 61.9%となりました。

サークルの利用については、男性と60歳代以下の利用者が若干ではありますが、増加している結果となりました。

公民館講座参加者の男女比・年代については、令和4年度の公民館講座アンケート結果では、令和2年度と比較し、男性は2%減少していますが、60歳代以下の参加割合は11%増加しました。



公民館講座参加者は、サークル利用者よりも若い年代の利用が多いことから、公民館講座のサークル化を積極的に促すことで、公民館利用者の若返りが期待できるきざしが見えてきました。

同じ言葉が重複するので整理

また、男性の利用促進に向けて、さらなる取組が必要な結果となりました。男性の地域コミュニティへの参加を促進させるためには、60歳以下の年代には余暇時間の有効活用の提案のほか、リタイア後の男性の生きがいをづくりにつながる、講座内容の工夫などがもっと必要であることが考えられます。

~~ここまで、公民館の現状と課題や、その改善策についてお話ししてまいりました。~~

聞いてわかりやすい文章に変更

まとめになりますが、公民館の現状を把握し、課題を探り、その改善策について検討してまいりました。

~~寒川町の社会教育では、「町民が地域で学び、その成果がひとづくり、まちづくりに生かされている」ことをめざす姿としております。~~

公民館が地域の学びの拠点として、現在、公民館の利用が少ない男性や若い世代の地域活動への参加や、仲間づくりのきっかけをつくるとともに、つくっていくことが重要となっています。

寒川町の社会教育では、「町民が地域で学び、その成果がひとづくり、まちづくりに生かされている」ことをめざす姿としております。

これからも子育て世代も含めすべての世代が地域で活発に活動できるよう、「すべての世代が集う公民館」を目指してまいります。

スライド ~~30~~→28/48 文字



事例発表① 「すべての世代が集う公民館をめざして」は以上になります。

ご清聴ありがとうございました。

~~9134~~→8262 文字 (約 28 分)